

締固め用機械を起因物（小）とする死亡災害事例（1999-2020年）

年	月	発 生 時	死亡災害事例	業種 (小) コード	事故 の型 コー ド	労 働 者 規 模
1999	1	10 ～ 11	溜池の管理道路の締め固め作業をタイヤローラーに乗って行なっていて、ローラーと共に斜面より約10m程下の池底に転落した。	30199	1	10 ～ 29
1999	2	16 ～ 17	道路舗装作業現場で通行車両の誘導をしているときに、後退してきたローラーに接触・転倒して胸部を圧迫された。	170201	6	30 ～ 49
1999	2	10 ～ 11	タイヤローラーの散布水を補給するためタイヤローラーに乗って前進させたときに、休憩道具の後片付けを行っていた者を前輪でひいた。	30106	7	30 ～ 49
1999	2	15 ～ 16	首都高速高架橋直下の舗装工事現場において、アスファルト敷設完了箇所での締め固め作業を行っていた後進中のタイヤローラーの後輪に、アスファルト端部の型枠取り外し作業に従事していた者がひかれた。	30106	7	30 ～ 49
1999	2	0 ～ 1	駐車場の舗装工事において、舗装面手直しに使用するガスバーナーを運搬してコンバインドローラーの後方側を横断中に後進してきたローラーに轢かれた。	30201	7	10 ～ 29
1999	2	13 ～ 14	高速道路工事の残土埋め立て場でハンドガイドローラを使用して整地作業を行っていて法面から転落したところへ、ローラが落下してきてその下敷きになった。	30199	1	30 ～ 49
1999	2	13 ～	社宅新築工事現場の駐車場のアスファルト舗装作業で、レイキ作業を行っていて後進していたタイヤローラーに激突された。	30201	6	10 ～

		14				29
1999	3	16 ～ 17	道路改良工事において、当日の作業が終了したので、ロードローラーを ～ 運転して機械駐車場所に向ってロードローラーを後退させていたとき 17 に、運転席から転落して車体と右後輪との間に頸部を挟まれた。	30106	7	10 ～ 29
1999	3	8 ～ 9	工事現場において、ローラー車が池に転落し運転者が水死した。	30106	1	0
1999	4	19 ～ 20	ハンドローラーで表層の転圧仕上げ作業を行なっていて、方向転換をし たところへ後ろのスロープをタイヤローラーが下がってきてひかれた。	30110	7	10 ～ 29
1999	2	8 ～ 9	池整備工事で、前日に降雨に備えて小段上に退避してあったタイヤロー ラーを池底部に移動しているとき、仮設スロープ路肩から約5. 2メート ル下に横方向に1回転して転落し、そのときに地面と車両との間にはさ まれた。	30199	1	300 ～ 499
1999	8	17 ～ 18	下水道管布設工事現場において、管布設後に手作業で舗装作業を行って いたところ、後退してきた車両系建設機械(締固め用機械)にひかれた。	30110	7	10 ～ 29
1999	8	14 ～ 15	配水管布設替工事において、幅員が狭い道路でコンバインドローラーを 移動していたときに、路肩から転落し、その下敷きになった。	30106	1	1～ 9
1999	9	8 ～ 9	工事現場に向うためローラーを運転して林道(巾・約4m)を走行中、谷側 (右側)に寄りすぎたため路肩から外れて、斜面(勾配・約50度、約 8. 4m)をローラーと共に転落し下敷となった。	30106	1	30 ～ 49
1999	10	15 ～ 16	河川改修工事の築堤作業において、タイヤローラーで堤防の上の盛土を 締め固めているときに、盛土を運搬してきたダンプトラックがきたので 通そうとして路肩に寄り過ぎ2. 3m下の田に転落し、その下敷きになっ た。	30106	1	30 ～ 49

1999	9	16 ～ 17	道路拡幅工事において、路盤用砂利の転圧作業を振動ローラー(重量4t)を用いて行っていたところ、前方にいた者に気付かずひいてしまった。	30106	7	30 ～ 49
1999	12	10 ～ 11	ローラー(重量10トン)をトラックに積み込むため、トラックのセルフローダー(アウトリガーのようなもの)を伸ばし前方を持ち上げた状態で、積み込み、ローラの運転者がサイドブレーキをかけ運転席を離れたときローラーが動き出し、トラックの後方にいたトラック運転者が地面とローラーにはさまれた。	40301	7	1～ 9
2000	3	14 ～ 15	河川修繕工事現場の進入路(幅約3m)の砂利舗装作業を振動式ローラー(4.0t)で実施中に、約1.6m下の川に転落し、ローラーの下敷きになった。	30106	1	10 ～ 29
2000	5	14 ～ 15	空港用地造成工事において、滑走路周辺の道路工事のためタイヤローラー(総重量8605kg)で整地作業を行っていたときに、その後方でスコップを使い整地作業をしていた者をひいた。	30106	7	50 ～ 99
2000	9	14 ～ 15	ガソリンスタンド建設工事において、土間に敷く砕石を均す作業をしていたときに、締め固め作業をしていたローラーとキャノピー鉄骨との間に挟まれた。	30201	7	1～ 9
2000	9	10 ～ 11	農業用ため池建設工事で、最上段(3段目)の堤防をローラーで整地作業中に誤って斜度28度5.6m下の2段目にローラーとともに転落し、その下敷きとなった。	30199	1	10 ～ 29
2000	7	11 ～ 12	市道の改良工事現場において、道路中央に停車してあった振動ローラーが作業の邪魔になるので振動ローラーを路肩に移動させたときに路肩から約3.75m下の田畑に振動ローラーとともに転落した。	30106	1	1～ 9
2000	3	8 ～ 9	農道舗装工事において、車両系建設機械(ローラー)で路面の転圧作業をしていてローラーとともに約2.7m下の河原に転落し、ローラーの下敷きになった。	30106	1	10 ～ 29
		14	町道の道路舗装工事において、道路の整地転圧作業中、道路沿いの川岸			

2000	12	～ 15	で立ち小便を済ませて道路側へガードレールを乗り越えたときに道路側に転倒し、そこへコンバインドローラー(機体重量2.3t)が後退してきて頭部をひかれた。	30106	7	1～ 9
2000	1	16 ～ 17	農道工事において、振動ローラー(機体総質量3.6t)で締め固め作業中に、高さ65cmの法面から振動ローラーごと転落し、運転席から飛び降りたがその上に振動ローラーが滑り落ち振動ローラーと地面に挟まれた。	30106	1	30 ～ 49
2001	2	13 ～ 14	街路の築造工事で、路盤の整地のため4tコンバインドローラーで作業中に、バックしたとき近くの作業員をタイヤローラーで左足から胸部にかけてひいた。	30106	7	1～ 9
2001	3	16 ～ 17	県道補修工事において、タイヤローラー(質量8.5t)で転圧作業を実施していてタイヤローラーを後退させたときに清掃(アスファルトのならし)作業に従事していた者がタイヤローラーの後輪にひかれた。	30106	7	1～ 9
2001	3	13 ～ 14	タイヤローラーを運転(自走)して現場に向かっている途中、堤防からタイヤローラーもろとも転落した。	30107	17	10 ～ 29
2001	4	15 ～ 16	鉄塔新設工事に関連する既設道路の拡幅する工事において、振動ローラーで砕石敷設作業を行っていてローラーごと谷側に約10m転落した。	30301	1	30 ～ 49
2001	6	14 ～ 15	橋梁工事用進入路の建設作業において、盛土部分をコンバインドローラー(機体質量3.3t)で路肩部分を後退しながら転圧作業中に、路肩から約1.5m下の側溝に機体とともに転落した。	30199	1	10 ～ 29
2001	9	14 ～ 15	村道拡張工事において、幅6mの工事中の道路の整地作業中に締固め用ローラー車が路肩から谷へ約70m転落し、雑木林に投出されて全身を強く打した。	30106	1	1～ 9
2001	11	16 ～	駐車場の舗装工事において、舗装区画外にこぼれたアスファルト合材をダンプトラックに積み込む作業中に、タイヤローラーが減速しながら後	30199	7	30 ～

		17	退してきたので退避しようとしたときにタイヤローラーが急加速したため逃げ切れずタイヤローラーにひかれた。			49
2001	5	16 ～ 17	国道の舗装工事において、施工した舗装の温度測定をしゃがんで行っていたところ、バックしてきたタイヤローラ(機体質量8.5t)にひかれた。	30106	7	10 ～ 29
2002	2	10 ～ 11	道路整備工事現場において、整地作業に使用するロードローラーを取りに行き戻ってくる途中、誤って道路整備脇の水路に重機ごと転落してロードローラーの下敷きになり、水路に深さ30cmほどの水があったため溺死した。	30106	1	1～ 9
2002	3	16 ～ 17	農業集落排水工事において、県道を復旧させるために路盤材で埋め戻しを行い振動ローラー(機体質量3t)で路盤の締め固め作業中、路盤材の敷きならし作業を行っていた者が後退してきた振動ローラーに頭部を轢かれた。	30106	7	30 ～ 49
2002	3	10 ～ 11	舗装補修工事現場で、道路中央付近で路面に散乱していたアスファルト骨材をほうきで掃いていたところ、後ろからきたマカダムローラーに轢かれた。	30106	7	30 ～ 49
2002	2	16 ～ 17	町道の舗装完了後にコンバインドローラーで仕上げ転圧作業中、後進したコンバインドローラーが片付けのため歩行していた者をローラーで轢いた。	30106	7	10 ～ 29
2002	3	16 ～ 17	主要地方道の交通安全施設整備工事において、現場内を移動していた者がわだちを残さないようアスファルトを転圧するために後進させていたローラーに轢かれた。	30106	6	10 ～ 29
2002	7	16 ～ 17	県道改良工事において、盛土敷均し後の転圧のため振動ローラーを作業場所まで移動していたところ、路肩をオーバーし法面部分(約20度)で横転したのでローラーから飛び降りたときに、法面に停止していたドラグショベルのカウンタウェイトとローラーの運転席の手すりとの間に胸部を挟まれた。	30199	2	30 ～ 49

2002	8	11 ～ 12	国道の舗装工事において、道路沿いのコンビニへ出入りする車の誘導を行っていて後進してきたタイヤローラーに轢かれた。	170201	6	30 ～ 49
2002	8	14 ～ 15	12tセルフローダーに載せられていたコンバインドローラーを事業所の敷地に駐車させるため運転して移動していたところ、敷地に隣接する水路に約2.5mの高さからローラーとともに転落し下敷きになった。	40301	1	10 ～ 29
2002	9	7 ～ 8	前日から現場に堆積していたコンクリート構造物の残がいをダンプで片付ける作業で、残がい付近に停車してあったタイヤローラーが邪魔になるため移動させたときに、路肩から約4m下の沢に重機とともに転落した。	30106	1	50 ～ 99
2002	10	8 ～ 9	タイヤローラー（機体質量8.5 t）のエンジンが作動しないので、同僚が4 t ダンプトラックに乗ってワイヤロープで両方の車両をつなぎ、ダンプでタイヤローラーを牽引しながらエンジンを作動させたところエンジンがかかったので、タイヤローラーから降りてつないでいたワイヤロープを外していたときに、無人のタイヤローラーが前進してダンプとの間に頭部を挟まれた。	30201	7	10 ～ 29
2002	9	11 ～ 12	賃貸アパートの新築工事において、駐車場のアスファルト舗装材の締め固めのため、コンバインド・ローラー（機体質量3.3 t）を後進させていたときにローラーの右後方にいた者を轢いた。	30201	7	10 ～ 29
2002	11	3 ～ 4	国道上で道路の舗装工事中、前進してきたマカダムローラーに接触し、マカダムローラーとアスファルトフィニッシャーとの間に挟まれた。	30106	3	10 ～ 29
2002	12	13 ～ 14	道路改良工事において、一人でローラーによる転圧作業を行っていて路肩より約2m下の水路に転落し、ローラーから投げ出されて深さ約20 cmの水中でローラーの下敷きになった。	30106	1	10 ～ 29
2002	12	13 ～ 14	道路新設工事において、碎石を敷き終わってローラーで転圧作業中に、ローラーの後方にいた者をローラーで轢いた。	30106	7	1～ 9

2003	1	10 ～ 11	1tローラーで道路の舗装作業中、後方よりタイヤローラーがバックしてきてひかれた。	30106	7	10 ～ 29
2003	3	9 ～ 10	ロードローラーで資材置場から工事現場へ向かう途中、ロードローラーとともに約3.3m下の用水路に転落し、ロードローラーの下敷きになった。	30199	17	1～ 9
2003	7	11 ～ 12	河川堤防上の道路補修工事において、砂利を敷き詰めて締固め用機械（機体質量3.7t）を使用して整地を行っていたときに法面（のりめん）から転落した。	30107	1	1～ 9
2003	7	8 ～ 9	橋梁建設に伴う周辺道路等の整備工事において、作業場所に置いてあった搭乗式振動ローラー（質量約3.5t）が作業の妨げになるため移動させていたときに、建設中の橋梁取付道路の路肩からローラーごと約4m下の地面に転落し、ローラーの下敷きになった。	30199	1	1～ 9
2003	8	14 ～ 15	道路建設工事において、道路上に停車させていた締固め用機械を運転して工事の邪魔にならない個所へ移動させていたときに、道路路肩（ガードレール無）から締固め用機械ごと谷に転落し、運転席から投げ出されて約8m下方の山林に激突した。	30106	1	10 ～ 29
2003	9	13 ～ 14	道路工事の土質試験用サンプル採取のため、同僚と転圧作業場所に立ち入って土砂のサンプルをかがんだ状態で採取していたときに、背後から後進で走行してきたタイヤローラーにひかれた。	170209	7	1～ 9
2003	10	15 ～ 16	舗装作業に使用したタイヤローラー（10t）を保管場所へ移動していたときに、タイヤローラーが蛇行し（蛇行運転し）路肩から転落した。	30106	1	10 ～ 29
2003	12	16 ～ 17	道路工事において、歩道路盤（砂利敷）の締め固め作業を一時中断し重機オペレーターがコンバインドローラー（機体質量2.3t）から降りようとしたときに、防寒服の袖が前後進レバーに引っかかったため後進し、ローラーの約73cm後方で路盤状況を確認していた者をひいた。	30106	7	10 ～ 29

2003	12	8 ～ 9	土木工事において、勾配がある路上に駐車中のタイヤローラーの逸走防止措置が不十分でひかれた。	30106	7	10 ～ 29
2004	4	3 ～ 4	コンバインドローラーを用いた道路舗装作業において、道路上で写真撮影をしていた被災者に後進中のローラーが激突した。	30110	6	300 ～
2004	5	15 ～ 16	道路拡幅工事現場において路盤を振動ローラーで転圧作業中に、振動ローラーと停車中のダンプカーに挟まれた。	30106	7	10 ～ 29
2004	9	9 ～ 10	中学校の運動場通路の舗装工事において、中学校の外の駐車場に止めていたバイブレーションローラーを町道を通って工事場所に移動させようと、被災者が運転して駐車場から町道に出て前進させていたところ、町道から約2.3mの畑に車両とともに転落した。	30106	17	1～ 9
2004	10	14 ～ 15	工事現場で使用していたタイヤローラーを、運転して大型トラックの荷台に後進で積み込んでいたところ、トラック荷台前方のフレームと後進したタイヤローラーの間に挟まれた。	40301	7	10 ～ 29
2004	1	0 ～ 1	ローラーにて転圧作業中、ローラーを運転していた被災者が機体に引っ掛かって引きずられ、コンクリートブロック壁とローラーの側面に挟まれた。	30199	7	30 ～ 49
2004	10	16 ～ 17	コンバインド型振動ローラを移送するため3tダンプトラックの荷台に道板をかけ、後進で積込中、前輪がすべって脱輪し、運転していた被災者が運転席から1.25m下の道板に墜落、さらに0.75m下の路上に落ちた。	30199	1	1～ 9
2004	6	0 ～ 1	道路工事現場で、運搬車にタイヤローラーを積み込む作業で、被災者が積み込んだタイヤローラーを運搬車にワイヤロープで固定する作業がほぼ完了し、タイヤ止めを行おうとした時に固定ワイヤロープが切断し、タイヤローラーと運搬車の間に挟まれた。	30106	7	1～ 9
		0	橋取付部の舗装工事現場において、コンバイントローラーを堤防道路に			50

2004	12	～ 1	停車中、対向から生コン車が接近してきたため、離合が可能な場所まで後退させていたところ、被災者がコンバイントローラーと共に、路肩から水田へ転落した。	30107	17	～ 99
2005	3	10 ～ 11	舗装工事現場において、タイヤローラーにより路盤を転圧するため、前進及び後退の動作を繰り返していた際に、後方にて測量作業中の被災者に気付かず、そのまま後退させたため、タイヤローラーの後輪でひいた。	30199	7	50 ～ 99
2005	8	13 ～ 14	道路を4トンローラーを用いて締固め中、路肩からローラーごと2m転落し、ローラーの下敷きになった。	30106	1	10 ～ 29
2005	12	～ 10	駐車場のアスファルト舗装工事を行うに当たり、搭乗式振動ローラーを使用し締め固め作業を行っていたところ、駐車場端から3.5m下の道路にローラーとともに転落した。	30199	1	1～ 9
2005	1	13 ～ 14	道路面を振動ローラーで転圧中に、法面に振動ローラーがずり落ち、さらに高さ7.5mの補強土壁から落下した。	30106	1	1～ 9
2005	11	14 ～ 15	既設道路の舗装作業において、ローラーで路盤の転圧作業を行っていたところ、路肩部分からローラーとともに転落した。	30106	1	10 ～ 29
2005	2	0 ～ 1	道路舗装工事現場においてアスファルト舗装作業中、後進してきたタイヤローラーにひかれた。	30106	7	1～ 9
2005	11	16 ～ 17	河川敷の走路整地工事において、走路整地作業を行っていたところ、地盤締固め機械のローラー車にひかれた。	170201	7	1～ 9
2005	1	14 ～	農道新設工事現場において、路体盛土の転圧作業を行うため、タイヤローラーに搭乗し後発進で移動していたところ、路肩に寄りすぎていた	30199	1	30 ～

		15	ため、タイヤローラーごと谷に転落し、タイヤローラーの下敷きとなった。				49
2005	6	14 ～ 15	4トン締固めローラー車を運転して移動させようとした際、側溝（深さ2m、幅2m）に転落、ローラー車が横転して挟まれた。	30106	1		1～ 9
2005	7	13 ～ 14	アスファルト道路上の土砂を洗い流すため、タイヤローラーの後方で、散水用ホースにて歩行しながら散水作業を行っていたところ、後進してきた当該タイヤローラーにひかれた。	30199	7		10 ～ 29
2006	2	16 ～ 17	被災者の担当する現場の作業が終了した後、被災者が締め固め用機械（140cm×316cm、機体重量4t）を運転し、工事現場の仮設道路を移動していたところ、通路脇の仮設水路にローラーごと転落し、ローラーの下敷きとなった。	30107	1		1～ 9
2006	2	17 ～ 18	市道（幅員4m）の舗装工事現場で締固め用機械を運転し、道路に沿って転圧作業を行っていたところ、約90センチ下の水田に同機械と共に転落下敷きとなった。	30106	1		10 ～ 29
2006	4	16 ～ 17	道路拡幅舗装工事において、被災者が作業を終了しハンドガイドローラーを保管場所へ移動していたところ、後退中の機体重量3.3トンのタイヤローラーに轢かれた。	30106	7		1～ 9
2006	5	8 ～ 9	道路舗装工事において、締固め機械を移動させようと被災者が運転をし、勾配約17度、幅3メートルの坂道を下っていたところ、進行方向右側の急斜面（法面）を当該機械とともに約3メートル転落した。	30106	1		10 ～ 29
2006	7	9 ～ 10	堤防補修工事において、被災者がローラー（機体重量3.2t）にて締め固めしている際、堤防の法面から転落した。	30199	1		1～ 9
2006	11	10 ～ 11	道路の修繕工事において、被災者は交通誘導を行っていたところ、被災者の背面方向から後退してきた締固め用機械（搭乗式振動ローラー、機体重量2.3t）にはさまれた。	170201	7		50 ～ 99

2006	12	6 ～ 7	道路舗装修繕工事において、被災者が幅出し作業（道路に白線を引く場所にあらかじめチョークでマーキングをする作業）に従事していたとき、タイヤ・ローラーに轢かれた。	30106	6	50 ～ 99
2006	11	10 ～ 11	新築工事現場において、フィニッシャで敷き詰められたアスファルトをタンデムローラー（機体荷重3.52トン）で転圧作業中、被災者がタンデムローラーの運行経路内に入り、後退してきたタンデムローラーにひかれた。	30201	7	50 ～ 99
2006	12	10 ～ 11	町道の舗装及び排水溝改修工事現場において、コンパクタを使用し舗装作業に従事していた被災者が、同じく舗装作業において後進中のコンバインドローラー（機体総重量約4トン）にひかれた。	30106	6	1～ 9
2008	8	8 ～ 9	被災者は、工事現場内での使用が終わった締固め用機械（タイヤローラー機体重量2.7t）をリース会社へ返却するため公道（直線道路、幅員7m）を自走中に反対車線を逸脱し深さ約1.5mの側溝へ転落した。その衝撃で乗っていたタイヤローラーの下敷きになり死亡した。	30199	17	1～ 9
2008	2	15 ～ 16	ダンプトラックの誘導をしていた作業者が、盛土部分の斜路（最大勾配8度）の下部で無人のタイヤローラーと無人で停止していたブル・ドーザーが接触しているのを確認したため、当該作業者はタイヤローラーのエンジンを停止し、サイドブレーキをかけた後、ブル・ドーザーを後退させたところ、タイヤローラーの前方下部でひかれて死亡していた被災者を発見した。	30106	7	100 ～ 299
2008	11	11 ～ 12	国道新設工事において、コンバインドローラーを運転して、幅員5mの盛土の転圧作業を行っていたところ、前輪ローラー部分が法面の肩からはみ出したため、誘導員の合図でバックした直後にローラーごと法面の肩から転落して約3m下のU字溝敷設箇所へ投げ出されてローラーの下敷になった。	30199	1	1～ 9
2008	12	16 ～ 17	車両系建設機械（タンデムローラー）を10t貨物自動車に積み込む作業を行っていたところ、橋の末端部より同機械と一緒に50m下の川に転落した。	30106	1	30 ～ 49

2008	11	13 ～ 14	倉庫建築工事現場で基礎の埋め戻し後、ハンドガイド式ローラーで転圧作業中、転圧箇所の切り返しをするために被災者がローラーとともに後進していたところ、被災者がコンクリート基礎の端から転落し、その上に後進してきたローラーが落下してきて下敷きになった。	30201	4	10 ～ 29
2008	3	16 ～ 17	路上の転圧作業終了後、作業に使用したローラーを道具置場から所定の位置に戻すために後進させたところ、後ろにいた警備中の被災者を後輪でひいた。	170201	6	30 ～ 49
2008	10	14 ～ 15	舗装工事現場において、アスファルトを敷く前の地固め作業を行うために被災者が、2.7tの振動ローラーを運転していた。その際、路面上の路肩付近に設置されたマンホールが路面より5cm突出していたため、ローラーがこれに乗り上げて路肩側に傾くと同時に滑ったため、被災者はローラーに乗ったままの状態約3mの道路下に転落して死亡した。	30106	1	30 ～ 49
2008	2	15 ～ 16	道路舗装工事現場で、マカダムローラーの施工写真を撮るため、稼働中のマカダムローラーとタイヤローラーの間に入り、タイヤローラーのすぐ後でしゃがんで写真を撮っていたところ、後進してきたタイヤローラーにひかれた。	30106	7	1～ 9
2009	2	10 ～ 11	砂利をローラーで均す作業中、被災者がローラーの進行方向に立ち誘導していたところ、被災者が停止の合図をしたにもかかわらず、ローラーが止まらず前進し、被災者をひいた。	30109	7	10 ～ 29
2009	11	9 ～ 10	送水管布設工事現場において、作業開始後、被災者は現場から約100m離れた空地に置いていたローラーを一人で取りに行った（ガードマンが目撃）。しばらくして、ガードマンが空地に人影がないことを不審に思い、責任者に連絡、責任者が空地に行ったところ、ローラーの下に倒れている被災者を発見した。なお、発見時には、ローラーのエンジンはかかっていた。	30110	7	1～ 9
2009	12	12 ～	道路拡幅工事において、被災者はタイヤローラーを事業場の保管場所から工事現場まで公道を運転して移送作業を行っていたところ、現場直前の右カーブ（アスファルト舗装、道幅4.5m、R=20m、約8度の下り勾	30106	2	1～

		13	配) で車体がバランスを崩して横転し、被災者がその車の下敷きとなった。			9
2010	1	10 ～ 11	県道新設工事現場において、大型ダンプトラックから降ろされた土砂の転圧作業を行うため、タイヤローラーを運転し転圧を行っていたところ、2度目の後退時にタイヤローラーを法肩に寄せすぎたため、タイヤローラーのバランスが崩れ、タイヤローラーとともに、法肩から転落した。また、被災者はタイヤローラー運転に関する特別教育は受けていなかった。	30106	1	1～ 9
2010	3	13 ～ 14	道路舗装工事現場において、被災者は舗装が終了した路肩部の土を締め固めするため、ローラー（ハンドガイド式）を操作していたところ、ローラーが進路から外れて、高さ約1.5mの水田に転落し、その下敷きとなった。	30106	1	10 ～ 29
2010	6	10 ～ 11	公園設備の工事で、現場に到着し、トラックの荷台からローラーを下ろすため、鋼製の道板を設置し下ろしていたところ、道板上にて体勢を崩し仰向けに転倒。その上をローラーが通過して轢かれた。病院に救急搬送されたものの、死亡した。	30199	7	10 ～ 29
2010	6	15 ～ 16	被災者は道路の舗装工事が終了し、作業場所近くの通行止めの範囲に駐車していた4tダンプトラックに、舗装定規（角材）を積み込む作業をしていた。当該ダンプの後方に、作業を終えた締固め用機械（コンバインドローラー、3.6t）を、回送車の現場到着まで待機させようと別の労働者が移動してきて機械を一旦停止させた。しかし、完全に停止していないことに気が付き停止させようとした際、機械の操作を誤り、締固め用機械が被災者に激突したものの。	30106	6	30 ～ 49
2010	10	12 ～ 13	県道の舗装修繕工事において、片側交互通行規制で表層工を施工中、交通誘導員が仕上げ転圧作業中の後退してきたタイヤ・ローラーの後輪に全身を轢かれ即死したものの。タイヤ・ローラーの運転者が後方をよく確認していなかった。	170201	7	30 ～ 49

2010	10	14 ～ 15	堤防道路から河川敷に降りる道路の一部（約26平方m）の舗装工事中において、アスファルトを機体重量3.6tのローラーで締め固めている際、路肩に寄りすぎたため、運転手がローラーと共に約3m転落し、運転手がローラーの下敷きになったもの。	30106	1	1～ 9
2010	11	10 ～ 11	タイヤローラーで道路舗装作業中、道路長20m、片側幅3.0mの範囲でアスファルトの仕上転圧を行っていたところ、被災者が転圧領域に立ち入って道路中央部に敷いてあった敷居角材を取り外していた際、後退してきたタイヤローラーに下半身を轢かれ死亡した。	30106	7	1～ 9
2010	12	13 ～ 14	歩行者の誘導を行っていた警備員が、連絡や誘導の不備により、バックしてきた路盤転圧作業中のコンバインドローラーにひかれて死亡した。	170201	6	50 ～ 99
2010	12	9 ～ 10	林道維持修繕工事において、被災者と同僚2名で現場に到着し、当日作業を行う現場まで締め固め用機械（ローラー）を移動する準備として、被災者が林道の路肩に止めていたローラーのエンジンを掛けその場に待機し、それを確認した同僚が当日の現場に先に向かった。数分後に災害発生現場に到着した作業員がローラーとともに路肩から転落している被災者を発見した。救急車を呼んだが、胸部を打ち死亡したもの。	30199	1	1～ 9
2011	8	15 ～ 16	舗裝修繕工事現場において、プレートコンパクター（小型締め固め振動機）を使用して舗装の継ぎ目（始端及び終端）部分の予備転圧作業を行っていた被災者が、予備転圧する際にプレートコンパクターとアスファルト舗装面との間に入れる敷板を手を持って次の施工箇所へ移動中、後退してきたコンバインド振動ローラー（前輪がローラー、後輪がゴムタイヤである締め固め用の車両系建設機械、重量3.6トン）に轢かれ、死亡したもの。	30106	7	10 ～ 29
2011	10	14 ～ 15	トンネル舗装工事現場において、転圧作業を行っていたタイヤローラーが、碎石を運搬してきたダンプトラックを通すため、後進で進路を変えた際、付近でトンネル床盤端をスコップで碎石のならし作業をしていた労働者を轢いたもの。	30106	7	1～ 9

2012	12	13 ～ 14	被災者は、路床の締固めを機械で転圧作業中、誤って約5m下に落下した。	30106	1	10 ～ 29
2012	2	17 ～ 18	道路舗装工事現場において、片側通行にして舗装工事を行っていた際、交通誘導を行っていた被災者は、車両の誘導作業中にローラーの後方に立ち入り、アスファルト転圧中のローラーが後進したためローラー後部車輪に轢かれた。	170201	6	30 ～ 49
2013	5	11 ～ 12	被災者ら2名は、タイヤローラーを使用して中学校のグラウンドの整備を行っていたが、グラウンド上で被災者があお向けで倒れている状態で発見された。なお、被災者が運転していたタイヤローラーは、被災者から約18m離れた位置で、フェンスにぶつかる状態で停車していた。	60209	7	50 ～ 99
2013	8	15 ～ 16	道路舗装工事作業中、現場内で作業しているタイヤローラと一般車両が接触しないよう誘導していた被災者は、現場に隣接したドラッグストア店舗駐車場から出てきた一般車両をよけるためタイヤローラーの後進方向に立ち入り、何らかの原因でうつぶせに転倒した際、タイヤローラーが後進して被災者の左半身に乗り上げた。	170201	7	100 ～ 299
2013	1	13 ～ 14	林道を整形、舗装する工事現場において、幅員約3.5メートルの道路をタイヤローラーで走行中、路肩からタイヤローラーごと約3メートル下の谷藪に転落した。	30106	1	10 ～ 29
2014	11	11 ～ 12	埋設電線管路の撤去工事中、地盤の転圧作業の際、地面に敷設する碎石を積んだダンパーを作業帯内に停車させるため、転圧作業を行っていたローラーがバックで移動したところ、作業帯の先の交差点で警備をしていた被災者が轢かれ、死亡した。	170201	7	1～ 9
2014	8	16 ～ 17	工事現場にて、舗装工事を行うために使用していたタイヤローラーに轢かれ、死亡にした。	30106	7	30 ～ 49
2014	6	15 ～	被災者が、工事の記録写真を撮影していたところ、アスファルトを固め	30106	7	10 ～

		16	るためのタイヤローラーがバックし、被災者を轢いた。			29
2014	4	13 ～ 14	アスファルト道路の路上再生路盤部をタイヤローラーで転圧作業中、被災者は後退してきたタイヤローラーの後輪に轢かれ、死亡した。	30106	6	10 ～ 29
2014	4	11 ～ 12	振動ローラーで路面を転圧する作業中、振動ローラーと地山に挟まれた状態の被災者が発見された。	30106	7	1～ 9
2015	8	13 ～ 14	農道を砂利転圧作業していたロードローラーのオペレーターが、後方にくぼみがあるのを見つけ、くぼみに砂利を詰めるためにローラーから降車した。降車の際にギヤをニュートラルにして降りようとしたところ、ギヤに体の一部が触れてしまいローラーが無人の状態で行進してしまっした。ローラーの約7m前方にいた現場監督は気が付かずに無人で行進してきたローラーにひかれた。	30106	7	1～ 9
2016	12	15 ～ 16	林道開設工事現場において、被災者が掘削した土砂を約300m離れた土捨て場までダンプで搬出していたが、施工箇所へ戻ってくるのが遅かったため、他の労働者が探していたところ、既設林道の路肩から法長約36m下に搭乗式振動ローラーが転落しており、その付近に被災者が倒れているのを発見された。	30106	1	10 ～ 29
2016	7	15 ～ 16	被災者は現場事務所から施工場所まで測量器具を徒歩で運んでいたところ、元請労働者が運転するタイヤローラーが通ったため、当該タイヤローラーの左側面の搭乗用ステップに乗った。約100m走行した地点に約5cmの段差があり、タイヤローラーが跳ねた。運転者は被災者の方を確認したが、見当たらなかったため後方を確認したところ、路上に被災者が仰向けで倒れていた。	30106	1	1～ 9
2016	4	16 ～	次の日は天気荒れるという予報が出ていたので、雨じまいのため当日の作業を早く切り上げ現場作業員全員で片付けに入ったが、自分の方付けに目途がついたので、一部未転圧の部分を自分の担当ではないが良か	30106	1	1～

		17	れと思い路肩近くに停められていた振動ローラーで転圧作業をしようとしたところ、運転操作を誤り路肩からローラーもろとも勾配約30度の法面を8.4m下まで転落した。				9
2016	3	16 ～ 17	河川局部改築工事において、悲鳴を聞いた同僚作業員が、仮設通路上の振動ローラー横に倒れている被災者を発見した。搬送先の病院で死亡が確認された。	30107	1		10 ～ 29
2017	12	10 ～ 11	新築マンション外構の駐車場舗装工事において、タイヤローラーによりアスファルトの転圧を行っていたところ、後進してきたタイヤローラーに轢かれて死亡した。	30201	7		10 ～ 29
2017	5	10 ～ 11	建設現場内に駐車されていたタイヤローラーが作業の支障となったことから、当該ローラーを運転して移動させていた。移動予定の位置に達したものの、当該ローラーが停止せず、そのまま工事現場内を98.2m走行し、法肩から約30m下の法下へ、当該ローラーとともに、当該ローラーの運転席に搭乗していた被災者が転落した。	30106	1		1～ 9
2017	2	12 ～ 13	コンバインドローラー（2.5t）をトラックの荷台上に乗せるため、当該ローラーを運転し移動させたところ、荷台上の左側に寄りすぎ、はみ出したため、バランスが保てず荷台左前方からローラーごと転落し、その下敷きとなって死亡した。	40301	1		1～ 9
2018	5	14 ～ 15	レストランの新築工事現場における駐車場舗装を行うため、車両系建設機械であるローラーを使用してアスファルトの転圧作業を行っていたところ、同作業を一人で行っていた運転者（被災者）が、同ローラーを後進させたまま運転席を離れ、同ローラーの下敷きになったというもの。被災者は、外傷性ショックにより、1時間後に死亡した。	30201	7		1～ 9
2018	3	16 ～ 17	農道の拡幅工事現場において、被災者が幅員2.5mに拡幅した道路を振動ローラーにより転圧作業中、路肩が崩れ、振動ローラーとともに法面（こう配30～35度）を約8m転落し死亡したもの。	30106	1		10 ～ 29
		14	道路補修工事（災害復旧工事）において、盛土した土砂を転圧する箇所				30
			で、被災者がロードローラーを運転していたところ、路肩からロード				

2019	3	～ 16	ローラーごと転落し、傾斜40°の法面を5.6m下ったところの擁壁上でロードローラーの下敷きになり、死亡した。	30106	1	～ 49
2019	2	～ 16	自動車道IC改築工事現場において、被災者が2.4tコンバインドローラーを運転し、前後方向に傾斜する路盤を後進にて転圧作業中、運転席の椅子が車体から外れて椅子ごと車体右側に投げ出され、前部鉄輪に轢かれたもの。病院に搬送されたものの、被災から約3時間後に死亡した。	30106	7	1～ 9
2020	12	～ 10	被災者は、土手上において舗装工の準備として不陸整正作業を行うため、2.5tローラーを運転し移動させていたところ、土手下に転落して2.5tローラーの下敷きになり死亡した。	30106	1	1～ 9
2020	10	～ 14	道路舗装復旧工事において、アスファルト舗装の締め固めを行っていたコンバインドローラーに被災者が轢かれた。	30106	7	10 ～ 29
2020	5	～ 20	道路舗装工事において、交差点手前の矢印標示につき、被災者がしゃがんでチョークにてマーキングをしていたところ、アスファルトの締め固めをしていたタイヤローラーが後進し、被災者が轢かれたもの。	30106	7	10 ～ 29
2020	1	～ 18	橋梁の耐震補強工事において、河川内の「締め切り盛土」の天端部分（高さ約2.5m、幅員2.5～2.9m）を、振動ローラー（車両幅1.3m）で締め固める作業を行っていたところ、振動ローラーが路肩から転落した。路肩の下は勾配約33～34度の法面となっており、振動ローラー転落時に同ローラーを運転していた被災者が投げ出され、その後同ローラーが被災者の体上部を通過し、胸部を圧迫されたもの。	30199	1	10 ～ 29

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_05.html